



「命のリレー」でグラウンドを行進する参加者ら
—広島市中区



日本での第1回のイベントは茨城県で平成18年に開かれた。今年は9月から10月にかけて、計14カ所で催される。中国地方での開催は今回が初めてで、初日は約1500人が集まった。

会場では、患者団体などが横断幕を掲げてグラウンド内を次々と行進する「命のリレー」を行い、「勇気を持ってがんに立ち向かおう」のメッセージを発信した。昨年からは悪性リンパ腫の治療を続けている広島県三原市の会社員、山田史郎

がんの患者や経験者、家族らが交流し励まし合うイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2009」が22日、広島市中区の旧広島市民球場で始まった。がんの早期発見を呼びかける医療関係者の講演会や、亡くなった患者を追悼するキャンドル点灯などを、23日午後1時まで24時間にわたって繰り広げる。

「がんに立ち向かおう」 広島患者支援の集いに1500人

さん(59)は「同じ立場の多くの人に出会うことで、元気を分けてもらった気がします」と話していた。

実行委員長を務める同県尾道市の医師、浜中和子さん(59)は「私もがん経験者の一人。がんは特別な病気ではないということを多くの人に伝え、励まし合っていきたい」としている。